

平成20年度 博士課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

「作業に関する自己評価・改訂版」の構成概念妥当性の検討
～作業療法学生を対象として～

学位の種類： 博士（保健科学）

保健科学研究科 保健科学専攻 地域保健科学分野
研究生番号 04003

氏名：石井 良和

（指導教員名： 山田 孝 ）

注：1,000字程度（欧文の場合 300ワード程度）で、本様式1枚（A4版）に収めること

作業療法の理論的実践モデルである人間作業モデル(Model of Human Occupation, 以下 MOHO) の概念に準拠した評価である「作業に関する自己評価・改訂版 (Occupational Self Assessment, version2; 以下 OSA II)」の構成概念妥当性を検証するために、健常な作業療法学生 98名 (21.4±3.5歳) を対象として、OSA IIの第1部「自分について」と第2部「環境について」の各質問項目に回答してもらい分析した。

分析はそれぞれの作業有能性尺度の得点を用いて因子分析（主因子法，プロマックス回転）を行った。「自分について」では，第Ⅰ因子（自己目標課題の遂行），第Ⅱ因子（日常生活課題の遂行），第Ⅲ因子（対人交流の遂行），第Ⅳ因子（余暇の遂行）の4因子が抽出された（因子負荷量の絶対値.40以上）。「環境について」では，第Ⅰ因子（余暇の遂行環境），第Ⅱ因子（協力的人間環境），第Ⅲ因子（生活と休息環境），第Ⅳ因子（生産的環境）の4因子が抽出された（因子負荷量の絶対値.40以上）。「自分について」では 21項目中の 15項目（71.4%），「環境について」では8項目のすべてが因子の中に含まれていた。「自分について」の4因子と「環境について」の4因子間には対応関係が見られた。

MOHOにおいては作業遂行の創発を人間システムの意志，習慣化，遂行のサブシステムと環境などの要因が相互に作用した結果であると考えることから，MOHOに準拠した評価である OSA IIの「自分について」で今回抽出された4因子は学生の生活を構成する作業分類上の作業（形態）の遂行についての作業有能性を測定しているものと考えられ，それらに対応する環境とあわせて OSA IIは構成概念上の妥当性を有していると考えられた。ただ，作業療法における作業の分類は一般に仕事・生産的活動（遂行），日常生活活動（遂行），遊び・余暇活動（遂行）の3分類が用いられているので，対人交流の遂行という因子が新たな作業分類上の一作業なのか，あるいは，職業人や入院患者など環境が異なる対象者においても生活を構成する同様の因子が抽出されるのかという課題が残された。